

# SHIN CLUB 231

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「上町しぜんの国保育園 (small pond)」 撮影：アック東京

## 子どもが中心

写真は、このたび世田谷区に竣工した「上町しぜんの国保育園」です。世田谷区は、全国的に見ても、待機児童がもっとも多い地域。保育園を作っても作っても間に合わないと言われていました。社会福祉法人「東香会」は、40年以上にわたり、子どもの創造性を育む保育事業に携わってこられ、「町田しぜんの国保育園 (small village)」では、グッドデザイン賞や日本建築家協会優秀建築選を受賞。その特色ある保育に着目した世田谷区からの新たなオファーにより、上町に保育園が建てられることになりました。

東香会の齋藤紘良理事長は、保育園の園長としてだけでなく、ご自身が子ども向けの音楽活動を行い、アーティストを保育事業に参加させたり、カフェを作って地域の方たちを呼び込んだりして、ユニークな保育事業を展開されてきました。その齋藤理事長が「新しい園長に」と協力を仰いだのが、枠に収まらない保育で有名な港北ニュータウンの無認可保育園「りんごの木」の青山誠氏でした。

オープンしたばかりの「上町自然の国保育園」に何うと、青山園長は開口一番「保育園なんてない方が、本当はいい」と言われるのでびっくり。それは「子育ては家庭でやるのが一番、それができないから、保育所でやるのであって、親や保育者だけでなく、街ぐるみで子育てをするという感覚が大切」ということなのでした。

「園庭に通じる大きな窓のところに立つと、子どもたちの動きがよくわかります。子どもは、自分のことを言葉では表現できません。体の動き、表情、泣く…。それらをよく見つめて、その気持ちを汲み取ることが大事。プログラムを先行させて、大人が子どもの行動を制限してばかりの保育園も少なくない。でもそれでは自己肯定感の低い人間になってしまいます。



青山誠園長。壁には子どものミーティングの張り紙。テーマは部屋の使い方。

ここでは、見せるための行事は一切やりません。決まっているのは入園式と卒園式と運動会。運動会も子どもたちがミーティングをして種目を決めます」と話す青山園長の後ろの壁には子どもたちの張り紙が、4,5歳で自己主張しながら互いの言い分を話し合うそうです。

「職員一人一人によく言うのですが、もしこの建物がなくても、原っぱで砂山があり、思い切り子供たちが遊ぶことができれば何もいらない。建物が建つことで子どもの動きが制限されたら、それこそ建物にとっても不幸なこと。だから子どもが先で建物があと」と青山園長。建物への希望は、間口が広い大空間、そして昔の建築からヒントを得た、内と外の間の中間領域。内と外をきっちり線で区切ると、足をいったん外できれいにしてからとか、皆、並んでとなりがち。雑巾をおいておき、自分で足拭いて入っておいで、というゆるい感じが子どもの気持ちを育みます。中間領域は「縁側廊下」として実現しました。

「子どもを見るのは親だけ、保育園だけと皆さん言い過ぎです。街中の交通安全の問題だってそう。この辺は歩き始めた子が散歩する道だと、ドライバーがリアルに思ってくれればいい。車とママチャリがぶつかったら、間違いなくママチャリが負けです。なのにママチャリにだけ『気をつける』というのはちがう。弱者にだけ努力義務を課すのではなく、強者がゆずらない」と青山園長。まだまだお話しはつきません。保育はいろんなことを学ぶ機会を得られるのだと改めて思い出しました。

## 上町しぜんの国保育園 (small pond)



全景

### 子どもの心に寄り添う保育を再構成

ユニークな保育を行う保育施設の建物である。齋藤紘良理事長と、青山誠園長が掲げた、「small pond」=小さな泉という全体像には、敷地内に元々井戸があり、前面道路には川が流れていたという環境を手掛かりに、「様々な人・もの・ことが、子どもという存在を中心にして湧き上がる」という水と保育のイメージが重ねられている。「土と水があれば何でもできる」という青山園長の保育を具体的に実現するために、次の3つのポイントを押さえている。



板塀と外階段

1. スケールを意識した A・B 棟、全体を立体的につなぐ C 棟  
 子どもの受け止め方を考え、隣接する住宅等と同じような大きさとして感じられるように、A・B 棟に分けてスケールダウンした。屋根のかけ方や、窓の大きさ、それらが違和感なく周囲に溶け込むようにし、その2棟に連なるC棟を敷地の外周に巡らせて、外階段のデッキ、板塀とともに中庭を形成している。

### 2. 「土と水」をうける混構造

1階がコンクリート造、2階は木造。泥んこ遊び、水遊びをしても子供たちが自由に入力できる土台として1階はコンクリート造にしている。建物に入ると、中間領域の縁側、ホール、奥の各個室へと連なる。また、中庭に足洗い場があり、山をめぐって水がそこに集まって、それを受ける土手のような抽象的な意味合いを建物に反映させている。園長からはできるだけ木を取り入れたいという希望があり、2階は木造とし、親しみやすい空間となっている。



中庭を臨む。建物前の土の部分が泥んこ遊びのポイント

### 3. 以前の敷地プランを活かす

敷地には以前、セメント建材販売店が建っていたが、東側に建物や倉庫があり、北側前面がオープンになっていてトラックが出入りしていたため、南側・西側に向かって大きく空が広がっていた。この空の広がりを気に入って、建て主は敷地を決定されている。加えて、北側前面道路際から敷地いっぱい大きいものを建てると、近隣に圧迫感を与えることになる。必然的にもとのプランをなぞるように建物を配置し、それは方角的にも保育園の中が丸見えとなることを避け、騒音、プライバシーに配慮する判断となった。



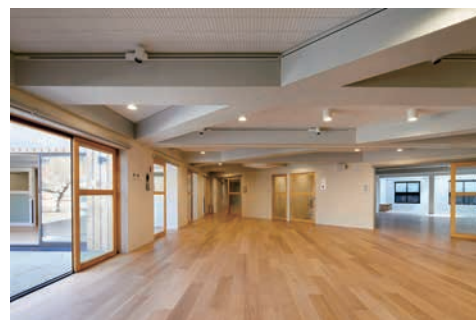
2階テラス。水遊びをできるよう、裸足に優しい仕上げとなっている

板張りの塀を巡らせているが、その大半がC棟で、天端が中庭から次第に高くなっていく。この3つ目の建物の存在感はかなり検討した。板塀には世界遺産の厳島神社で使われている「人・環境にやさしい保存処理木材」を使って手触りの良さにこだわり、また外側は横貼りになっているが、内側は縦貼りにして、子どもがよじ登れないようにしている。外からも内からも気配を感じながら見えないようにしている。窓のサッシの上下の分割、扉の高さにも工夫をし、保育園は子どもの居場所である一方、スタッフの職場でもあるので、目線が行き届く仕掛けをしている。部屋は、それぞれ0~5歳児室として名前が付けられているが、青山園長は家庭保育を意識した全学年縦割りを試みており、部屋の使い道を4歳児以上の子どもたちにミーティングで決めさせたりしている。一見フレキシブルだとは感じられないかもしれないが、住宅スケールの建物として捉え直せば、その使い道を活動の中から子どもたちと楽しく作っていく、青山園長の考える本当のフレキシブルにつながっていくことだろう。

(中佐昭夫氏 談)



1階。保育室と園長が希望した中間領域の「縁側廊下」



1階。サッシの分割は子どもの目線に配慮



2階木造部分保育室



2階。A棟とB棟前のデッキ



手前の前面道路をセットバック、見通しをよくしている

所在地：世田谷区  
 構造：RC造+W造  
 規模：地上2階  
 用途：保育園  
 設計・監理：中佐昭夫  
 /ナフ・アーキテクト&デザイン  
 竣工：2019年1月  
 施工担当：尾内、石井（祥太）  
 撮影：矢野紀行

## 提案型の仕事が多い事務所です

## 中佐昭夫／ナフ・アーキテクトアンドデザイン



町田市にある  
「しげんの国保育園 (small village)」  
写真：矢野紀行

# Akio Nakasa

今月は、「上町しげんの国保育園」を設計された、ナフ・アーキテクトアンドデザインの中佐昭夫氏にお話を伺います。

－広島と東京の2拠点の事務所なのですね。

中佐：私は、もともと生まれ育ちも広島で、大学も広島でしたが、大学院から早稲田に行き、卒業後、山本理顕設計工場に入りました。当時、広島で消防署を設計する計画があり、広島出身ということもあって担当になりました。現場監理は常駐だったので工事が始まったら引っ越して里帰りみたいになったのですが、3年位勤めて、その後は友人の中園と広島で設計事務所を設立しました。ところが始めてみると、若い我々にそんなにたくさん仕事があるわけではなく、2拠点でやった方がいいということになり、結局また私は東京に戻ってきました。離れていても共同でやるのは、それなりに良さがあり、東北地方でも仕事をするなど、西日本以外の仕事もするようになりましたから、面白いものですね。

現在は、互いにほとんど別プロジェクトで仕事していますが、でも小さい事務所ですから、何かあったら協力するという感じです。

私自身はもう広島に戻らないですね。自宅もこちらに建ててしまいました。実は、父が広島大学の工学部で教えていたのですが、いよいよ退官を迎えたときに、「将来、どうするんだ」と言われまして。結局は親をこちらに呼び寄せることにして、10年前に2世帯住宅を設計して、広島に帰らない選択をしました。私のわがままですね。土地購入の際には親の協力があり、ありがたかったです。

－2棟構成の、すてきなお宅ですね。設計業務は、もちろん保育園などの施設も多いかと思いますが、住宅も多いのですか。

中佐：そうですね、住宅も、保育所、クリニックやデイサービスセンターなども、わりといろいろやっていますね。住宅が半分、そのほかが半分、という感じでしょうか。

以前、弁護士事務所ビルの設計もやりましたが、テナントとして大使館が入居予定だから、どれくらい魅力や高いクオリティを保てるかという要望でした。そういう意味では、予め意匠とか機能を優先するというより、「とにかく提案してほしい」ということをよく言われます。「考えてほしい」ということですね。



中佐昭夫氏。世田谷区奥沢の事務所にて 撮影：アック東京

世の中、高度経済成長期ではないから、人も減ってくるわけですし、同じものを早くたくさん作って、と言われるよりは、中身を問われる仕事をさせていただく方がやはり楽しいですね。

東京は、民間の仕事の情報が多いし、地方のプロジェクトの情報も東京に流れてきます。

今、岩手で湯葉工場新築の相談を受けていますが、湯葉を作っている生産者が、事業継承者として町おこしも含めてどう生きるかという生き方をしているもので、面白くなりそうです。

－HPで拝見した、「Continuing House」は、ご夫妻の終の棲家ですね。鎌倉にある昭和初期の和館・洋館を寄付して、残された敷地に次世代へつなぐ建物を建てられたものなんですね。

中佐：実は建て主が親戚なのですが、高齢の夫婦なので、当初終の棲家として純和風建築を作してほしい、と言われるかと思っておりましたが、想像とは違って、現実には孫世代に譲ることを考えて、非常にシステムティックなシンプルな建物をつくることになったのです。同世代の私の父などは「それでいいの？」などと言っていましたが、建て主は「それでいい、無駄なものはない」と。

私も子供のころお邪魔したりしたのですが、そのままらっても若い世代には維持できないし、それで寄付せず残した土地に、新しく若い世代が新たな使い方を考えられるフレキシブルな余裕を持たせた建物を建てることで落ち着きました。息子夫婦が孫を連れて遊びにくるから、ロフトに階段をかけようか、などとさっそく改造を考えておられます。

鎌倉などの古い町では、ほんとにそのまま相続しても困ってしまうというものが多くいますよ。

－空き家問題などにも関係してきますね。

問題は、実際に使う人が建物にどうかかわっていくかですね。今回の「上町しげんの国保育園」のように、公的施設であっても実際にその建物を使う方がはっきりしている施設はいいのですが、使い手を想像できない建物は、いくら設計者が提案してもうまく行かない場合もあると思います。

－本日はありがとうございました。

## 中佐昭夫 (なかさあきお)

1971年 広島県生まれ  
1990年 広島県立広島皆実高等学校卒業  
1995年 広島大学工学部第四類 (建設系) 卒業  
1997年 早稲田大学理工学研究所修士課程修了  
1997～2000年 山本理顕設計工場  
2000年 中園哲也とN A F共同設立  
2001年 ナフ・アーキテクト&デザイン (有) 共同設立  
2019年～ ナフ・アーキテクト&デザイン (有) 代表

## 受賞

町田自然幼稚園、A House Made of Two、しげんの国保育園 (small village)、TRAYS、Continuing House など



写真上・右：「Continuing house」  
昭和初期の「和館・洋館」を保存会に寄付したオーナーが、残した敷地の一部に子供世代に引き継いでゆけるように建てた自邸  
写真：矢野紀行



「(仮称) 東急百貨店第一別館リノベーション工事」



外壁タイルは生かし、建物前面にパーゴラを設けた

この度、渋谷の東急百貨店本店近くのビルの耐震改修工事を施工させていただきました。設計の(株)フリークスの小菊健司様にコメントをいただきました。

本計画は昭和30年代築のオフィスビルを有効活用する事を目標にスタートした。

既存建物は築後の法改正により、計画地の用途地域が変更になっていたり、耐震改修も必要な状態であった。様々なシミュレーションを経てフルリノベーションを行い、1階に店舗誘致、その他の階は貸しオフィスとする方針を固めた。計画地周辺は、通称『オクシブ』として話題のエリアである。渋谷の最先端エリアとして高感度の人が集まる、駅周辺とは一味違う界隈性のある地域である。

単なるリフォームでは、新築ビルを超えた魅力を生み出すことはできないと考え、これまでの建物の歴史をエイジングとし、耐震フレームを中心とした新たな要素をレイヤー表現することで、新築ビルにはな

い魅力を生み出すことを意図した。またこれを機会にビル名称も「オクシビル」と改称した。共同設計者である再生建築研究所とのコラボリノベーション工事の経験が豊かな、辰の畠中所長の提案にも助けられ、エリアに新しいアイコンとなるビルができたと思っている。

テナントも一棟一括使用と順調なスタートをきる事が出来、新たな街の顔になってくれることを願っている。

(株)フリークス 小菊健司

改修工事

事業主：東急百貨店

C M: 東京急行電鉄

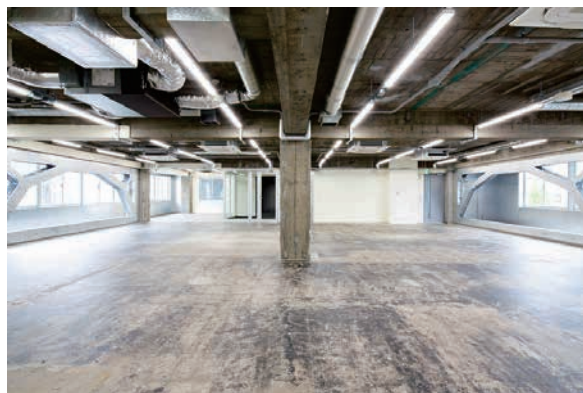
構造：RC造

規模：地下1階、地上6階

用途：事務所・店舗

設計・監理：フリークス 再生建築研究所

完成：2019年4月



4階フロア全景。東西両側に耐震ブレースを設けている



6階のブレースには鋼製の座席をつけている



屋上。デッキを敷き、憩いの空間に



6階トイレ。デザイナー新、スペースにもゆとりが。1階に多目的トイレを設置



1階エントランス。有孔折板でスタイリッシュな印象に

「竣工式が行われました」

2019年4月26日



事業主の東急百貨店様、CMの東京急行電鉄様、設計のフリークス様、再生建築研究所様、施工の辰と工事関係者全員で、記念撮影を行いました。

「(仮称) CASA 世田谷計画 新築工事」 地鎮祭

2019年5月18日



閑静な住宅街にプール付きの豪邸が建ち上がります。2020年には、内外からのお客様をお迎えできるように急ピッチで進めます。

構造：RC造

規模：地下1階、地上2階

用途：専用住宅

設計・監理：石原・山口計画研究所

内装設計：アルテリア

完成予定：2020年6月

「(仮称) 目黒東山プロジェクト新築工事」 地鎮祭

2019年2月21日



入居者同士が楽しめるようCNを設けました。完成が楽しみです。

構造：RC造

規模：地下1階、地上3階

用途：共同住宅

設計・監理：麻生征太郎建築設計

完成予定：2020年3月

編集後記

子どもたちの保育に関わる問題を考えていたら、登戸で恐ろしい事件が起きてしまいました。いったいどうやったら、子どもの命を守ることができるのか。解決方法は容易ではありません。

(株)辰通信 Vol.231 発行日 2019年6月10日 編集人：松村典子 発行人：岩本健寿  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450  
E-mail : daihyo@esna.co.jp URL : http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しています。  
<http://www.esna.co.jp/shinclub>  
スマホはこちらから →

